



馬場屋敷遺跡(新潟市南区)の田下駄出土状態(新潟市文化財センター所蔵)

新潟市歴史博物館を含め、新潟市域の博物館・資料館には、近世末～近代に普及したと思われる農具が数多く収蔵されており、それらの中には開墾用具も含まれています。これらは新潟市域を含む蒲原平野にひろがっていた低湿地を開墾するために用いられたものです。しかし、それらの地理的な分布や、いつ頃から使われていたのかという歴史的経緯などについては、ほとんどわかっていません。

近年は、遺跡発掘の成果により、これまであまりわからなかった蒲原平野の中世以前の耕地の様子が少しずつ解明され始めています。それらによって、耕地を開墾し、維持し、場合によっては放棄するという一連の人と耕地のかかわり方を考える新しい視点が提供されました。

今回の企画展では、新潟市域を含む蒲原平野の開墾の技術に焦点をあてて、考古学、歴史学、民俗学など、それぞれの研究成果をわかりやすく紹介します。さらに、いまだ明らかになっていない問題の所在を浮かび上がらせるを試みます。

これらを通して、農耕のもつ固定的・静的なイメージを一新し、農耕を中心とする社会のダイナミックな姿を市民の皆さんにお伝えできれば幸いです。



猪苗代湖南岸で使用されたナンバ(湖南民俗館所蔵) ヤチキリガマ(新潟市歴史博物館所蔵)

慶長11(1606)年 東酒屋組肝煎給開作宛行状(新潟市北区郷土博物館所蔵/新潟市指定文化財)

企画展

開墾の技術史
蒲原平野のたんぼとはたけ

かい
こん

かん
ばら
へい
や

【主な展示内容】

1. 発掘されたたんぼ・はたけ

近年の発掘調査で発見された新潟県各地の古代～中世の耕地に係る遺構、遺物を写真、図面、実物資料を中心に紹介します。

主な展示品 大沢谷内遺跡、細池寺道下遺跡、小坂居付遺跡の紹介パネル、出土遺物(木製品など)、発掘された田下駄と民具の比較など

2. 新田開発とたんぼ・はたけ

近世の新田開発に係る歴史資料を、文書・絵図資料を中心に紹介します。

主な展示品 開発免許状、耕地を描いた絵図、新田開発をあらわす地名地図など

3. たんぼ・はたけを開く道具

蒲原平野を中心に各地の資料館・博物館に収蔵されている開墾用具と、それらの背景にある開墾技術を紹介いたします。

主な展示品 蒲原平野各地の開墾用具と耕作具(各種鋤、ヤチキリ鎌、田下駄、田舟(キツゾ)、農鍛冶の道具など)

【講演会】

「日本農業史における開墾」

講師：木村 茂光氏
(歴史学者 帝京大学教授)
日時：8月19日(日) 午後1時半～3時
場所：みなとぴあ2階セミナー室
※講演会終了後、講師と企画展観覧予定。(要企画展観覧券)
募集人数：80人
申込：必要
参加費：(資料代)100円

《申し込み方法》

往復ハガキか電子メールにて、①講演会名、②名前、③住所、④連絡先電話番号を記入の上、お申し込みください。応募者多数の場合は抽選いたします。

【体験プログラム】

「鋤を使ってみよう」

日時：8月18日(土) 午後1時半～3時(雨天中止)
(詳細はみなとぴあホームページを確認してください)
場所：まいぶんポート(新潟市文化財センター)※現地集合
対象：小学生以上
申込：不要

【ギャラリートーク】

日時：毎週日曜日午後1時半～(8月19日のみ午後3時半～)
場所：企画展示室
参加費：参加無料(要企画展観覧券)

INFORMATION

■観覧料

	一般	団体(20名以上)
大人	600円	480円
大学生・高校生	400円	320円
中学生・小学生	200円	160円

※常設展示も観覧することができます。
※中学生・小学生は土・日・祝日は観覧料が無料です。

■開館時間：9:30～18:00
観覧券の販売は閉館30分前まで

■休館日：毎週月曜日(8/13日は開館)

■交通案内

- 新潟駅より：
新潟市観光循環バス(犬夜叉号)で27分「歴史博物館前」バス停下車すぐ
新潟交通「昭和大桥・入船営業所」行きバスで28分「歴史博物館前」バス停下車すぐ
- 車で：
新潟バイパス紫竹山ICより約15分(駐車場：73台収容可能)
- 信濃川ウォーターシャトルが敷地脇より発着



〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
TEL:025-225-6111 FAX:025-225-6130
URL <http://www.nchm.jp>
E-mail: museum@nchm.jp